

**10~12月期の業況は改善  
【特別調査】「2024年（令和6年）の経営見通し」**

**【調査要領】**  
調査時点：2023年12月上旬  
調査対象：西兵庫信用金庫お取引先103社  
調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査  
調査企業数：103社  
調査票回収：103社  
調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス)による分析  
景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	19
不動産業	5
総計	103

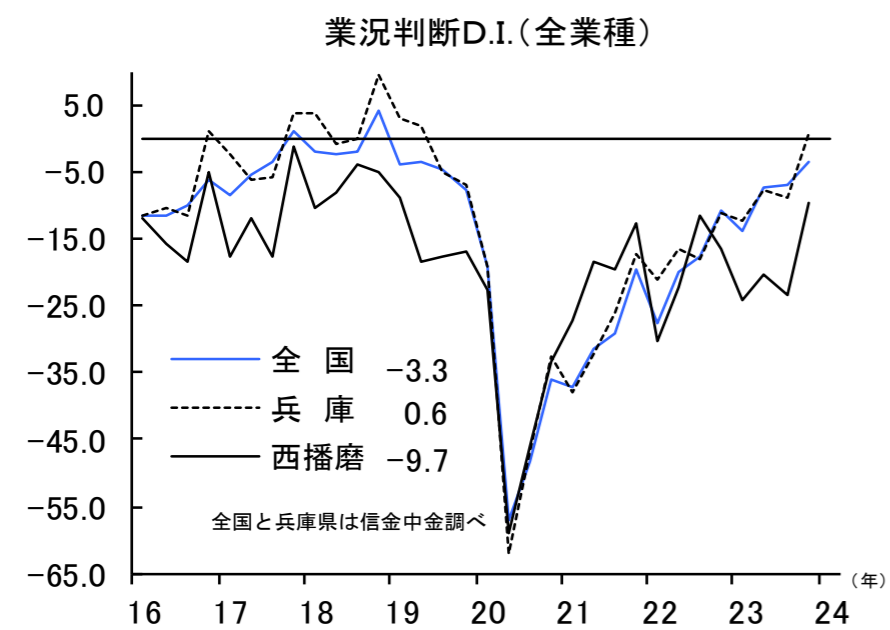
（例）

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50%-(悪い)25%=(D.I.)25

**全業種総合**

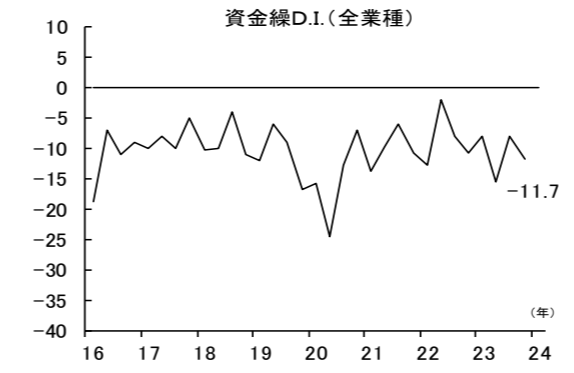
～景況感は改善～  
23年10~12月期（今期）の業況判断D.I.は△9.7と、前期比13.6ポイント改善した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業が5.9ポイント増加し、「悪い」と回答した企業が7.7ポイント減少したことによる。前年同期比の売上額判断D.I.は△2.9と前期比1.0ポイント改善。同収益判断D.I.は△17.5と前期比5.8ポイントの改善となった。業種別の業況判断D.I.は、製造業、卸売業、サービス業、建設業が改善した一方、小売業は低下、不動産業は横ばいとなった。  
全国の業況判断D.I.は△3.3と前期比3.7ポイント改善、兵庫県では0.6と同9.4ポイント改善した。



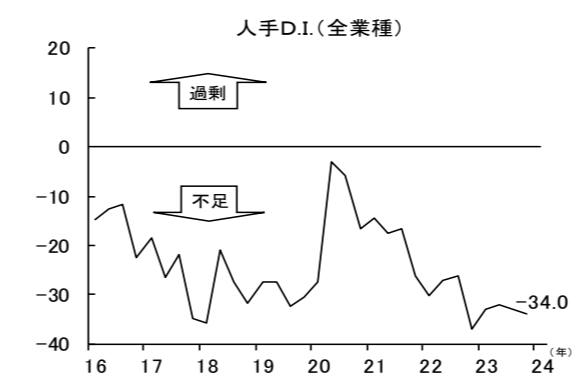
過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

業種名	2023年7~9月	2023年10~12月	2024年1~3月(見通し)
総合	☔	☁	☁
製造業	☔	☔	☔
卸売業	☔	☔	☔
小売業	☁	☁	☁
サービス業	☁	☁	☁
建設業	☔	☔	☁
不動産業	☁	☁	☁

天気図：快晴、晴れ、晴れ時々曇、うす曇、曇、雨、大雨  
好調 ← → 低調

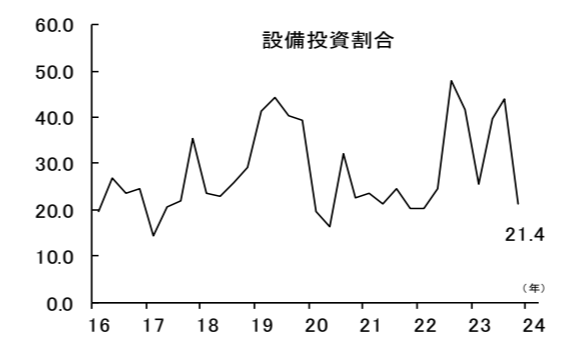


～販売価格判断D.I.、仕入価格判断D.I.ともに低下～  
販売価格判断D.I.は12.6と前期比10.7ポイント低下した。仕入価格判断D.I.は35.9と前期比12.6ポイント低下した。



～資金繰り判断D.I.は低下～  
資金繰り判断D.I.は△11.7と、前期比3.9ポイント低下した。業種別では、小売業が前期比5.9ポイント、サービス業が同10.6ポイント上昇。製造業が同6.3ポイント、建設業が同15.8ポイント低下。卸売業、不動産業が横ばいとなった。

～人手過不足判断D.I.は、人手「不足」感が若干強まった～  
雇用面では、人手過不足判断D.I.が△34.0（マイナスは人手「不足」超）と前期比1.0ポイント低下し、人手「不足」感が若干強まった。残業時間判断D.I.は△2.9と、前期比7.8ポイント上昇した。残業時間が「増加」したとする企業の割合が増加したことによる。



～設備投資実施企業割合は低下～  
設備投資実施企業割合（不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合）は21.4%と、前期比22.5ポイント低下した。

～来期の景況感は今期実績比低下の見通し～  
来期の予想業況判断D.I.は△15.5と今期実績比5.8ポイントの低下を見込んでいる。  
業種別の予想業況判断D.I.は、小売業が今期実績比11.7ポイント上昇。製造業が同15.7ポイント、サービス業が同10.5ポイント、建設業が同5.3ポイント低下。卸売業、不動産業が横ばいとなる見通し。

＜経営上の問題点＞  
経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」、「人手不足」が34%、「原材料高」が25%と多く、その他では「人件費の増加」が24%、「利幅の縮小」が18%となった。

経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	売上の停滞・減少	34%
1位	人手不足	34%
3位	原材料高	25%
4位	人件費の増加	24%
5位	利幅の縮小	18%

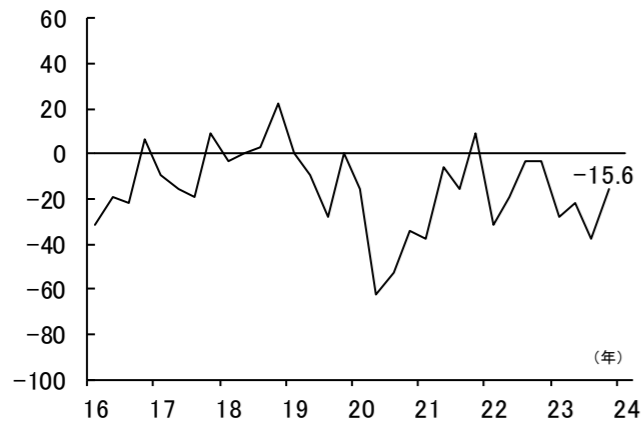
＜当面の重点経営施策＞  
当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が40%、「人材を確保する」が39%、「販路を広げる」が36%と多く、その他では、「教育訓練を強化する」が13%、「情報力を強化する」が11%、「機械化を推進する」が9%となった。  
今期についても、売上の停滞・減少または原材料高により、経費削減を重点的に取組む事業者が多い。

当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	40%
2位	人材を確保する	39%
3位	販路を広げる	36%
4位	教育訓練を強化する	13%
5位	情報力を強化する	11%
6位	機械化を推進する	9%

## 製造業

業況判断D.I.(製造業)



### ～製造業の景況感は改善～

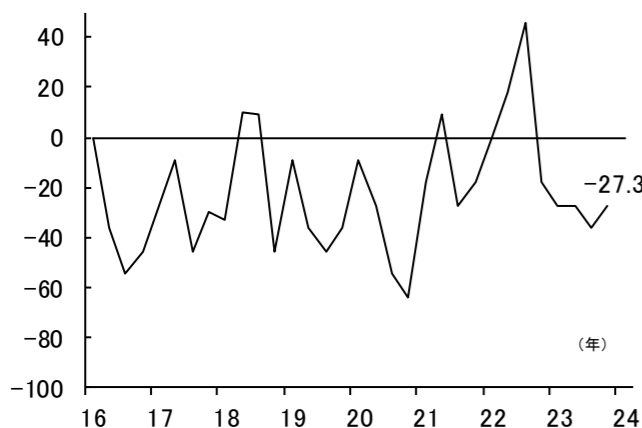
今期の業況判断 D.I.は $\Delta 15.6$ と、前期比 21.9 ポイント改善した。

前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 9.4$ と前期比 12.5 改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 25.0$ と前期比 3.1 ポイント改善した。

設備投資実施企業割合は 34.4%と、前期比 15.6 ポイント低下。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 9.4$ と、前期比 6.3 ポイント低下。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 21.9$ と前期比 6.2 ポイント上昇し、人手「不足」感が弱まった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 31.3$ と今期実績比 15.7 ポイントの低下を見込んでいる。

## 卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



### ～卸売業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と、前期比 9.1 ポイント改善した。

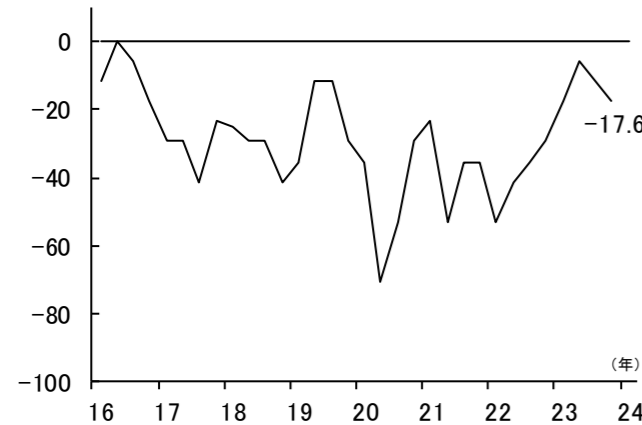
前年同期比売上額判断 D.I.は 18.2 と前期比 9.1 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と前期比 9.1 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 9.1$ 、人手過不足判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と前期比横ばいとなった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

## 小売業

業況判断D.I.(小売業)



### ～小売業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 17.6$ と前期比 5.8 ポイント低下した。

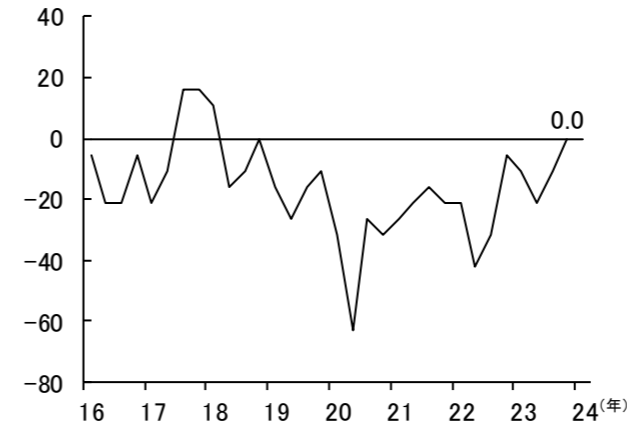
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 41.2$ と前期比 47.1 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 35.3$ と前期比 5.9 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 35.3$ と 5.9 ポイント改善、人手過不足判断 D.I.は $\Delta 29.4$ と前期比横ばいとなった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 5.9$ と今期実績比 11.7 ポイントの改善を見込んでいる。

## サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



### ～サービス業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は 0.0 と、前期比 10.5 ポイント改善した。

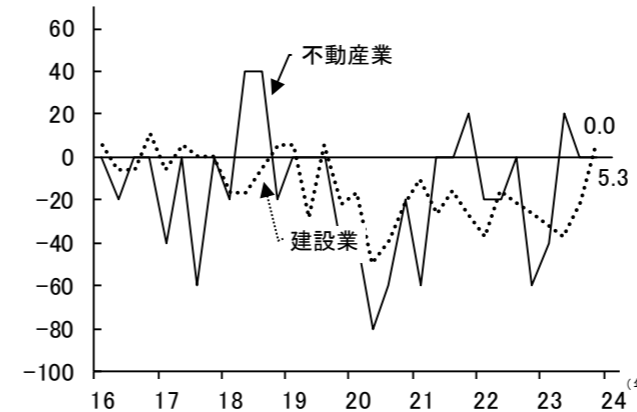
前年同期比売上額判断 D.I.は 10.5 と前期比 15.8 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は 10.5 と前期比 15.8 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は 5.3 と前期比 10.6 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 63.2$ と前期比 21.1 ポイント低下し、人手「不足」感が強まった。残業時間判断 D.I.は 5.3 と、前期比 5.3 ポイント上昇した。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、今期実績比 10.5 ポイントの低下を見込んでいる。

## 建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



### ～建設業の景況感は改善～

今期の建設業の業況判断 D.I.は 5.3 と前期比 26.4 ポイント改善。前年同期比売上額判断 D.I.は 5.3 と前期比 5.3 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 15.8$ と前期比 10.5 ポイント改善した。受注残判断 D.I.は 21.1 と前期比 5.3 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、前期比 15.8 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 42.1$ と、前期比横ばいとなった。来期の予想業況判断 D.I.は 0.0 と、今期実績比 5.3 ポイントの低下を見込んでいる。

### ～不動産業の景況感は横ばい～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は 0.0 と前期比横ばいとなった。前年同期比売上額判断 D.I.は 40.0、同収益判断 D.I.は 0.0、資金繰り判断 D.I.は $\Delta 20.0$ と前期比横ばいとなった。在庫過不足判断 D.I.は $\Delta 20.0$ と前期比 20.0 ポイントの低下となった。来期の予想業況判断 D.I.は 0.0 と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

## 調査員のコメント

**製造業**： 原材料価格の高騰による収益の減少が続いている。販売価格転嫁に時間を要する。

**卸売業**： 資金繰りに懸念は無いが、人手不足が課題。人員確保に努めている。

**小売業**： 物価高騰により仕入れ価格が増加しており、売り上げは伸び悩んでいる。

**サービス業**： 新型コロナウイルスからの経済再開の恩恵を受けた企業も目立っている。

**建設業**： 受注増加で工事が立て込んでおり、早急に人員確保が必要。

**不動産業**： 原材料価格の高騰により、新築するための土地取得の停滞が不安。